

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月2日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること  IV. 教職員の研修に関すること  V. 環境整備に関すること  VI. その他夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【横浜市立蒔田中学校】</p> <p>本校の夜間学級には、年齢層、国籍、就学年数が異なる生徒が在籍し、そのほとんどが日本語指導を必要としている現状がある。</p> <p>また、就学年数によって、数学と英語の習熟度に顕著な差異がある。</p> <p>本研究により、本校の生徒の現状に適した教育課程及び効果的な学習指導の実践に繋げる等、きめ細かな指導体制の構築及び教室等の教育環境整備など、更なる教育活動の充実を図ることをねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>（総括）</p> <p>横浜市内の夜間学級が蒔田中学校に統合され、7年目を迎えた。国語、社会、数学、理科、英語の授業は、各学年で習熟度別少人数授業を実施した。音楽、美術、保健体育、技術・家庭の授業は、学年ごとに実施し、夜間学級専任がT2として授業に入るようにしている。また、日本語指導が必要な1年生には、1時間目の課題別学習（各自が学習面の課題を克服するために自分で計画的に学習に取り組む時間）に習熟度別少人数日本語指導を行ったり、横浜市教育委員会で実施している日本語教室の受講を勧めたりして、早期の日本語の習得につなげた。これにより、全日制高校への進学を目指す生徒、日本語を学びながら教科の学習を進めたい生徒、小学校の学習内容を学びたい生徒など、今まで以上に個に応じた学びを実現することができた。</p> <p>本校の生徒のほとんどが外国籍または外国につながる生徒のため、7年前より外国語が堪能な学習支援サポーターを配置している。日本語指導が必要な生徒は、授業中や休み時間に通訳としてサポーターの支援を得られるので、学習内容の理解や教職員とのコミュニケーションが深まり、安心して学校生活を送ることができた。また、保護者面談の際にも、サポーターに通訳をお願いし、夜間学級への保護者の理解と協力を得ることができた。</p> <p>毎月実施した管理職と夜間学級専任教諭、非常勤講師が参加する担当者会では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に向けた各教員の実践について教員が紹介し合い、夜間学級全体において魅力ある学習指導の実践を行うことができた。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」には、日本語指導が必要な外国籍や外国につながる生徒への授業改善に通ずるものが多く、より多くの外国人就学希望者に教育</p>

の機会を提供することにつながったと考える。

(個々の実施内容及び成果)

【契約締結後】

・学級担任との教育相談（二者面談：3日間）

→目的：一人ひとりの生徒の現状について把握し、自己実現に向けた手立てについて検討する。

内容：日本語や英語等の理解度について、学習について、横浜市日本語教室への参加について、長期休業中の様子について、生活や体調・仕事・心配事について、学校生活における不安について、卒業後の進路について など

【成果】1年生から不安に思っていることなどを、担任が丁寧に聞き取り、不安を取り除くことができた。日本語指導が必要な1年生5名に日本語教室を勧め、受講することができた。

・研究テーマよび年間計画の確認

・補助教材の選定

→目的：生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた教材の検討を行うことで、充実した授業展開を目指す。

内容：生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた補助教材を検討・決定する。

【成果】5教科の学力や日本語の習熟度についてアセスメントを行い、習熟度別少人数授業のクラス分けを行った。日本語指導には、公益財団法人三重県国際交流財団発行の日本語指導のテキスト「新版みえこさんのにほんご」、「新版続みえこさんの日本語」を活用することとした。

・夜間学級担当者会の実施

→テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」における指導上の工夫や課題について（日本語支援の方法等についても検討）

内容：生徒情報の確認

習熟度別少人数授業の在り方について

一人ひとりに応じた指導と学力の向上を図る。

学習支援サポーターによる支援の方法について

効果的な支援方法の検討

指導方法の確認（各教科担当）

【成果】次のことについて、担当者で共有した。

○生徒同士で教え合う授業の大切さ

○日本語習得に向け、教員は英語よりも「やさしい日本語」を使用する。

・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について

内容：今年度実施する各行事の見通しと内容の検討

**【7月】**

- ・各教科の学習状況についての確認（担当者会にて）  
→目的・内容：各教科の生徒の学習進捗状況を確認し、今後の授業方針を検討
- 【成果】課題のある生徒を把握し、学習支援サポーターの配置を確認するとともに、個に応じた指導を通し、褒めながら伸ばすことを確認した。日本語指導が必要な生徒が多いため、プリントや板書には必ずふりがなを付けることを確認した。
- ・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について  
内容：令和3年度修学旅行下検分実施  
令和3年度修学旅行の内容及び行程について検討

**【9月】**

- ・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について  
内容：体育祭の実施振り返り  
修学旅行下検分の報告  
遠足の実施及び振り返り
- ・職員研修会の開催  
→目的：外国につながるの児童・生徒支援のために、主として在留資格について理解する。  
内容：神奈川県行政書士会の笠間由美子先生を招き、夜間学級担当職員へ在留資格の種類や生活・進路指導について学ぶ。
- 【成果】次の①～⑥について学ぶことができた。
  - ① 在留資格とは、日本がどのような外国人を受け入れるかについて、その外国人が日本で行おうとする活動の観点から類型化して入管法に定めたものである。
  - ② 外国につながるの児童が、自らのアイデンティティを再確認し、自尊感情を持って学校生活を有意義に過ごせるようにするためにも、国籍やビザの把握が必要である。
  - ③ 在留資格には2種類あり、就労制限があるものと就労制限がないものがある。
  - ④ 校長が教育上特に必要であり、出席しなくてもよいと認められた場合は、「出席停止・忌引等」の扱いとなる。
  - ⑤ 高校生がもっている可能性のあるビザで就労制限のあるものは「家族滞在」「公用」「留学」「特定活動（定時制高校に通う）」などである。卒業後、本人が日本での生活を継続するには、進路に応じて就労の認められるビザに変更することが必要である。現在のビザや、家族の状況によって進路指導の対応が異なる。

**【10月】**

- ・学級担任との教育相談（二者・三者面談：3日間 対象：3年生）  
→目的：一人ひとりの生徒の現状について把握し、自己実現に向けた手立てについて検討する。  
内容：学習について、長期休業中の様子について、生活や体調・仕事・心配事について、学校生活における不安について、卒業後の進路について など。
- 【成果】長期休業中の生活や学習について把握することができた。卒業後の進路について確認する中で、高校見学や進路面談など、今後の予定について見通しをもつことができた。
- ・横浜市公費による英検実施（3年生）
- ・前期のまとめ、中間報告  
内容：前期の成果と課題の検証（職員会議にて報告）

**【11月】**

- ・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について  
内容：芸術鑑賞の実施及び振り返り
- ・学習成果、日本語の習熟度等について確認（担当者会にて）

**【12月】**

- ・各教科の教材の検討（担当者会にて各教科単位で）  
→目的・内容：生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた教材の検討を行うことで、充実した授業展開を目指す。  
【成果】スモールステップの発問や指導、自分の思いや考えを自分なりに表現させること、生徒の国籍や文化のギャップを教材作成に生かすこと、生徒の国のことなど生徒が知っていることから日本のことを紹介することなどの工夫について共有することができた。

**【1月】**

- ・学級担任との教育相談（二者面談：4日間 対象：1・2年生）  
→目的：一人ひとりの生徒の現状について把握し、自己実現に向けた手立てについて検討する。  
内容：学習について、長期休業中の様子について、生活や体調・仕事・心配事について、学校生活における不安について、卒業後の進路について など。
- 【成果】長期休業中の生活や学習について把握することができた。行事の動画を保護者・本人に見せて、その活躍した姿等を見てもらうことができた。卒業後の進路について確認する中で、高校見学や進路面談など、今後の予定について見通しをもつことができた。

**【2月】**

- ・調査研究のまとめ、研究紀要の作成

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について</li><li>・球技大会の実施及び振り返り</li></ul> |
|--|--|

**【3月】**

- ・年間総括、研究紀要の発行、次年度の教育課程について検討
- ・経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について  
内容：社会見学の実施及び振り返り